

代表者役職名・氏名
：代表取締役・座光寺勇
設立年月日：平成23年7月1日
住所：〒462-0015
名古屋市北区中味鏡
3丁目629番地
A-503
電話：052-238-1355
FAX：052-238-1356
URL：http://itkobo-z.jp/
E-Mail：info@itkobo-z.jp
資本金：1000万円
業種：温室向け環境
モニタリングサービス
「あぐりログ」の開発・運用

ログBOXを設置するだけで 温室内環境をデータ化。 農業ビジネスの未来を創る



「あぐりログで愛知の農業に貢献したい」と語る座光寺社長



「ログBOX」は200×200×100mmとコンパクト



「ログBOX」の設置は吊り下げるだけとあって簡単

農業ITは未開拓のジャンル

モノづくり県として全国に名を馳せる愛知県が、農業産出額全国7位(平成26年度)の農業県であることはあまり知られていない。そんな愛知県の農業、とくにハウス栽培の分野で注目を集めるのが、IT工房Zが開発・販売するモニタリングシステム「あぐりログ」だ。愛知県農業総合試験場からサーバー管理の業務を受注したことをきっかけに、農業分野のIT化の立ち遅れを痛感。伸びしろのあるジャンルと直感して、農業未経験にも関わらず農業分野に特化したIT企業を立ち上げた。座光寺勇社長は「これまで栽培環境を数値化して管理しようという取り組みは希薄。経験と勘を頼りにした農業経営では立ちいかなかった

部分をカバーしようと考えた」と語る。

手づくり計測器に引き合いが

「まずは情報処理屋の立場から、ソフトウェアで農業に貢献できないかと考えた。ニーズを探る中で、温室の中の状態を把握するシステム、が切望されていると知った」(座光寺社長)。それもできるだけ簡単に安価なものを、と考えた。高価ではあったが、すでに計測器は売り出されていた。パソコン必須で、大掛かりな工事が必要だった。「スマホでデータを見られるようにして欲しい」という現場の声に応じて、市販のマイコンやパーツを買い集めて「手づくりの計測器」を試作した。展示会に出品すると予想以上の引き合いがあった。地元の国立大学から「10個作ってほしい」と頼まれた。「もともとものづくりについては素人であり、

利益をどう上げるか、メンテナンスをどうするか、ビジネスとして必須の課題も後回しにしてしまった」(同)。

低価格と手軽さをコンセプトに

量産やメンテナンス対応のための財源確保として「平成26年度補正ものづくり商業・サービス革新補助金」に応募した。ベンチャーハウスに入居したおかげで、製造を任せられる外注先はすぐに見つかった。愛知県農業総合試験場とJAあいち経済連のバックアップと補助金の助けにより、愛知県内で450台、県外に100台ほど出荷できた。サービス全体のネーミングは『あぐりログ』とし、計測器は『ログBOX』とした。1台の価格は7万5000円。年間のデータ管理費は2万4000円に設定した。「一度試してみるか、と思える手軽さ

と価格設定をコンセプトにした」(同)。工事不要で、適切な場所に吊り下げるだけ。測定された「温度」「湿度」「二酸化炭素濃度」のデータは、計測器に内蔵された通信機器によってサーバに送られ管理される。ユーザーはいつでもスマホでデータをチェックすることができる。

生産者同士の情報共有で ブランド化も

「先行する製品と差別化するために考案したのが、生産者間で情報を共有できるシステム」(同)。これまで生産者間の情報交換は、言葉や書類で感覚的に伝え合うしかなかった。生産者間でデータを共有したいというニーズはもともとあった。「あぐりログ」のモニタリングサービスを使用している生産者同士は、さまざまなデータの

共有、グラフでの比較などが可能となる(招待制による)。「生産者にとっては、自分のやり方が正しいかどうかの判断基準が生まれる。良い品種で収穫量を上げることで、地域作物のブランド化を図ることもつながる」(同)。「農業はもともと天候などで収穫量が大きく左右される。環境管理で少しでも安定した収益を維持する助けができればと思う」(同)。オプションと

して日射量・土や土中水の温度・土の中の水分量、肥料濃度などのセンサーの追加が可能。今後は「水耕栽培」のための液肥管理用センサーや露地栽培用ログBOXの開発にも着手する予定だ。また、農業技術普及員やJA営農指導員など農業の指導者と農家を結ぶシステムとしても構築したいと考える。農業に新たな風を吹き込む同社の今後に注目したい。



ハウス栽培農家からは注目の的

データチェックはパソコンやスマホで簡単に